

中央小学校では、子どもたちの読書体験を広げ、より深い読みへとつなげるために、「文学的な文章」や「説明的な文章」を読む単元では、並行読書を取り入れています。

並行読書教材は、「文学的な文章」の単元では、同じ作者の物語や同じテーマ（平和、昔話、海外の話）などを用意しています。「説明的な文章」の単元では、単元を貫く言語活動に即した資料を準備し、子どもたちが目的意識をもって読み進められるように工夫しています。

本実践は、6年生の最初の説明的な文章「時計の時間と心の時間」です。この教材が科学的な読み物であることから、子どもたちが自分の悩みを解決するヒントを、科学的な読み物から探し、2枚のフリップにまとめるという活動をゴールに据えました。

フリップは2枚で構成されます。

1枚目：要旨を書く

→「読むこと」の指導事項ア「文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること」

2枚目：事例を書く

→指導事項ウ「目的に応じて、文章と図表を結びつけるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすること」

フリップという形式を用いることで、文章を簡潔にまとめる意識や、情報を焦点化する力をつけることができます。

指導事項ウにある「目的に応じて」という言葉を大切に、子どもたちが「なぜこの文章を読む必要があるのか」を意識できるような言語活動を仕組みました、「読んで終わり」ではなく、「読むことでどう役立つか」に気づく活動をめざしています。

単元の学習が始まる前から、学年の廊下に
関連図書のコーナーを作成し、子どもたちが
本に触れられるようにしました。



単元の学習計画表は教室に掲示し、学習
中の活動に見通しをもてるようにしました。

7	6	5	4	3	2	1
自分の悩みを解決するための情報を調べ、フリップにまとめる。	並行読書を通して、自分の悩み解決に合った資料を選び、フリップづくりをしよう。	「時計の時間と心の時間」で、自分の時間の使い方について、立ち止まったところを選び、フリップづくりをしよう。	「時計の時間と心の時間」の要旨を把握し、一枚目のフリップにまとめる。	「笑うから楽しいのフリップづくりをしよう。	「笑うから楽しい」の構成を考える。	単元の見通しをもつ。

単元名

【筆者の主張や意図をとらえ、自分の悩みを「お悩み解決フリップ」で解決しよう】

単元の目標

- ・原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。(知(2)ア)
- ・事実と感想、意見などとの関係を、叙述をもとに押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。

(思C(1)ア)

- ・目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。(思C(1)ウ)

- ・文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。(知(1)カ)

- ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。(思C(1)オ)

【言語活動】

筆者の主張や事例をもとに、自分の悩みを解決する方法について「お悩み解決フリップ」にまとめる。

(本時)

「お悩み解決フリップ」に載せる悩み解決の方法を友だちと交流しながら見つける。

〈成果〉

○子どもたちが話し合いながら、複数の資料を読み、方法を探そうとすることができていた。

○モデル動画により話し合いの仕方を伝えることで、スムーズに活動に入ることができた。

〈課題〉

- 交流しながら悩み解決の資料を探すことはできていたが、資料の読み込みが甘く、自分が相手に知らせたい情報を本から探し出すことができない児童もいた。

→資料の読み取り方を指導しておく。

自分が見つけたい情報のところには付箋をつけて見つけやすいようにしておく。

- 長い時間、情報を見つけるための交流の時間をとったが、話が止まっているペアもあった。

→①ペア相手を代えるきっかけやタイミングを動画などで示しておき、ペアの交代で話題を変えながらいろいろな情報を見付けられるようにする。

②教師が話し合いの中に3人目として入り、話が進むように補助する。児童と同じ目線で話すようにする。

- フリップをつくるために情報を見つけているという意識がうすかった。

→情報を見つけるのがゴールではなく、フリップにどの情報載せるかを定めることをゴールとして設定し、フリップの作成を意識した学習活動にする。

☆指導案のデータも載せてあるので参照ください。



自分の悩み解決のための
情報を並行読書教材
から見つけ話し相手に
紹介しているところ